

令和4年度 地理歴史 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
α 日本史B	日本史B	2	A C D E F	3	必修選択	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	
授業形態	講義・演習
教科書	詳説日本史 改訂版, 山川出版社
使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・新詳日本史, 浜島書店(付 史料の基礎210選) ・日本史重要語句CheckList 啓隆社 ・新日本史要点ノート応用編, 啓隆社 ・江戸から東京へ, 東京都教育委員会

科目の目標・内容等

学習目標	原始から現代に至る歴史の流れをつかみ、東アジアをはじめとする世界との繋がりの中で形成されてきた日本社会や日本文化の特色について学び、歴史的思考力を養う。
学習における留意点	難関大学の入試にも対応できる授業内容とし、論述力養成の指導も行う。
予習・復習	予習: 教科書を読んで授業に臨む。 復習: 要点ノート・授業プリントで重要事項を身に付ける。
評価方法	年間5回の定期考査の得点を基本に、課題テスト・小テスト・平常点を加味し評価する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	原始・古代 【日本文化のあけぼの】 【律令国家の形成】	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の誕生から小国の分立、ヤマト政権の成立までの過程を理解させる。 ・東アジア世界との関係の変化に着目して、古代国家の推移について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原始社会について理解できている。 ・東アジア諸国のとのかわりについて理解できている。 ・古代国家の推移、古代の文化の特色とその成立の背景について理解できている。
2	古代 【貴族政治と国風文化】 中世 【中世社会の成立】	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭などに着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立背景及び中世社会の萌芽について考察させる。 ・武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立背景について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代国家の推移、中世社会の萌芽、古代の文化の特色とその成立の背景について理解できている。 ・中世国家の形成過程や社会の仕組み、中世社会の多様な展開、中世の文化の特色とその成立の背景について理解できている。
3	中世 【武家社会の成長】	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業経済の発達、庶民文化の萌芽に着目して中世社会の多様な展開について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業経済の発達、庶民文化等、中世社会の多様性を理解できている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。